



2026 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ

ROUND 5

SUPERBIKE RACE in MOTEGI



■ 栃木県
■ モビリティリゾートもてぎ
■ 1周=4.801379km

■ クラス / JSB1000
■ マシン / BMW M1000RR
■ タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 **44** 関口 太郎

RACE 1

8月29日(土) 天候: 雨 コース: ウエット

予選 12 番手 (タイム: 2分02秒142)
決勝 10 位

RACE 2

8月30日(日) 天候: くもり コース: ドライ

予選 11 番手 (タイム: 2分02秒264)
決勝 10 位



三明電気工事



天気にも翻弄されたもてぎラウンド。両レースをプライベーター最上位でフィニッシュ！

2026年シーズン、後半戦のスタートとなる第5戦が8月29日(土)・30日(日)に栃木県・モビリティリゾートもてぎで行われた。今年は、鈴鹿8耐が7月上旬と早い時期に開催されたこともあり、約2カ月のインターバルを経て、例年に比べると落ち着いて後半戦に向けた準備ができていた。



事前テストはなく、木曜日に特別スポーツ走行が設けられ、1日早いレースウィークのスタートとなった。開幕戦もてぎ2&4レースでは転倒した場面もあったため、新たな方向でマシンセットを進めていくが、フィーリングはあまりよくなかった。初日は、1本目がハーフウェット、2本目は雨となったが、ドライでもウェットでも同じ問題が出てしまっていた。



金曜日はドライコンディションとなり引き続き車体のセットアップを進めていった。1本目から2本目の途中までユーズドタイヤで、いろいろ試し、ようやく方向性が見えてきた。ファイナルも見直し、予選がドライ、ウェットのどちらになっても対応できるように備えた。



土曜日の公式予選は、ウェットコンディションとなった。コースインするとフィーリングもよく、接地感もあったため、徐々にペースアップ。8番手につけていたが、セカンドアンダーブリッジ後の左高速コーナーで水膜に乗ってしまい痛恨の転倒を喫してしまう。ケガはなく、再スタートできたのは、不幸中の幸いだった。ピットに戻り、Tカーに乗り換えてタイムを更新し、ベストタイムは12番手、セカンドベストは11番手につけた。



レース1もウェットコンディションで行われた。スタートを決めた関口は、オープニングラップを10番手で終え、前を走るライダーを追うが、レース1に向けて変更した部分が今ひとつ機能せず、思うようにペースアップできずにいた。4周目に西村選手にかわされ11番手となるが、7周目に前で転倒があり再び10番手に。背後には見玉選手が迫ってきていた。このころから雨量も多くなってくるが、ライディングを工夫しながら走り続けることで徐々にペースアップ。タイムも更新でき後続を引き離して10位でチェッカーフラッグを受けた。

日曜日はくもりとなったが、朝のウォームアップ走行は前日の雨の影響もありハーフウェットだった。レース2のコンディションが読めない状況だったため、レインタイヤで走り、リアのフィーリングを中心に確認作業を行った。

レース2はドライコンディションで行われた。関口は、安定したペースで周回。終始単独走行となり、レース1に続き10位でゴール。両レースをプライベーター最上位でフィニッシュした。



2026年シーズン後半戦が始まりました。暑さ対策をして挑みましたが、予想に反して気温はそれほど上がらず、雨も多い週末になりました。そんな不安定な天候の中、アライモータース様はツーリングで応援に来てくださいましたし、多くの皆さまが応援に駆けつけてくださいました。本当にありがとうございます。今回は、新たな方向性を探りながらレースを戦いましたが、今ひとつ詰め切れなかった部分がある中、レース2は1分50秒台で周回できましたし手応えはありました。早くも残り2戦となりましたが、次戦の岡山も全力で頑張りますので、引き続き応援よろしくお願いいたします。

関口 太郎

